

## 令和4年度 第3回鳴門市教育振興計画審議会 会議概要

日時 令和4年11月25日(金) 13時00分～

場所 うずしお会館2階 第2会議室

出席者 委員12名、関係課・事務局職員 7名

欠席者 委員4名

傍聴者 1名

### 概要

#### 1. 開会

#### 2. 議事

(1)「基本構想と施策体系」および「基本計画」について事務局から説明を行いました。

#### (会長)

成果指標数値について、具体的に記載されているが、計算した根拠について資料として提示できるようにしておいた方がいい。

#### (委員)

- ・「いのちを守る防災・安全教育」とあるが、防災だけでなく、防火に関しても教育していく必要があると思われる。
- ・火災警報器について、ついている家とつけていない家があると思われる。火の始末、火を扱うことの大切さを教育するのも重要である。

#### (事務局)

・学校においては、地震、津波、火災など様々な場面を想定した避難訓練を実施しており、火災における避難訓練の際には、火に対する注意喚起をするなどの教育も実施している。また、市の「学校幼稚園防災推進計画」は、火災も含んだ内容となっている。そういう観点からも、本計画の防災という記載には、火災に関することを含んだものであると認識している。

#### (委員)

- ・P46「放課後子供教室」の「子供」の表記について、「子ども」ではないのはなぜか。
- ・P52「ベートーヴェン第九」の記載について、鳴門では「第九」の愛称で親しまれているおり、

「主な取組」における記載、「～ベートーヴェン「第九」交響曲の学習を進めます。」ではなく、「ベートーヴェン交響曲第九番の学習を進めます。」と正式な名称にした方がいいのではないか。学習するという記載があるので、子どもたちが名称を誤って覚えてしまわないかが懸念される。他の記載については、「第九」など愛称での記載でいい。

(事務局)

・「ベートーヴェン第九」の表記について、「ベートーヴェン第九、第九交響曲」など愛称として定着しており、記載については、冒頭だけ正式名称とし、以下は「ベートーヴェン第九」とすると記載するなど、表記について検討したい。

・「放課後子供教室」の「子供」の表記についてであるが、文部科学省の表記では、「子供」の漢字表記となっている。ただ「新放課後子ども総合プラン」では、「子ども」のひらがな表記となっている。こちらの「放課後子供教室」に関しては、漢字表記とさせていただきたい。

(委員)

・P36の「学びに向かう力の育成とキャリア教育の推進」の成果数値目標について、「全国学力・学習状況調査」のアンケートに基づいて、目標値を設定されたということであるが、「家で自分で計画を立てて勉強していますか」という質問に対し、小学校の方が中学校より目標値が高いが、本来は自分で計画を立てて勉強するというのは、中学生の方が小学生よりも高い値でないといけないと思う。アンケートの結果が中学校の方が低いので、目標値についても小学校より低くなっていると思われるが、小学生よりも中学生が「自分で計画を立てて勉強する」ということが高い目標値となる必要があるのではと考える。

また、「将来の夢や目標を持っている」ということも、小学生は漠然と色々な目標を持っているため、現実には、小学校の方が高いと思われるが、「中学生に夢や目標を持たせること」という数値が小学校よりも上回る方がいいのではないかと考える。

・P44の「心に響く道徳教育の推進」の成果指標数値目標値について、令和4年度全国学力学習状況調査の「先生はあなたの良いところを認めてくれていると思いますか」という結果について、良いところを見ている教員は小学校で約半数、中学校では40%ぐらいとなっている。この結果について、教員は子供の良いところを認めているが、この子をもっと良くしたいという思いが強いため、子どもを叱ることが多いためではないかと思われる。ただ、新しい教育から考えると、褒めて伸ばす教育の方が効果は高いのではないかと、というのが現在の持論となっている。その点から考えると、「先生が自分を認めてくれているという目標数値」が、もう少し高くてもいいのではないかとと思われる。

(委員)

・P63「いのちを守る防災・安全教育の推進」について、例えば登下校時の不審者への対応な

どの安全教育も含まれるのか。

安全教育という考えで本計画を策定しているのか、それとも防災だけか。

(事務局)

・安全教育、子どもの命を守るというところで不審者対応という教育も含まれている。

(会長)

・「鳴門市通学路安全点検プログラム」は交通安全教育以外にも不審者対応の教育も含まれている。

(委員)

・図書館への本の寄贈の基準について、どのような本が寄贈として求められているのかわかりにくい、他の市町村であれば、よく借りられる50選などが掲載されている。本を寄贈したい人にとって見てわかるように、具体的に明示するなどしてほしい。

・SDGsに関連すると思われるごみの分別について、子どもがごみ処理の現場に携わる人から直接話を聞くなど、子どもの時から教育してほしい。ごみ教育により、子どもも意識し考えてごみを分別するようになるといった行動や考え方が、非認知能力や学力などの他の力に寄与してくるのではないかと思われる。

(事務局)

・HPに掲載しているが、汚損・破損・書き込み等のあるもの、図書館にすでに所蔵されているもの、古い資料や百科事典、視聴覚資料(DVD・CD)などは寄贈を受け付けていない。また、より詳細な寄贈受付の明示については、図書館長や認定 NPO 法人ふくろうの森とともに、検討してまいりたい。

・小学校の社会科見学として、クリーンセンターに行き、実際にごみ処理の現場に携わる人から話を聞いたりし、ごみの教育を受け、「ごみの分別ガイドブック」などの資料も渡すような取り組みをしている。ただ、学校現場としては、やはり燃える燃えないぐらいのレベルでの分別しかしていないので、「汚れたプラスチックをどうするのか、なぜプラごみではなく可燃ごみに捨てるのか」など、細かいごみの分別について、実際にごみの分別をするなど、学校で教育できるように検討してまいりたい。

(委員)

・P40「ICTを活用する教育の推進」について、本計画においては、ICTの推進だけでなく、ICTの危険性についての教育にも配慮しており、安心した。

私もパソコンを使用しているが、パソコンの生涯学習できる、教えていただけるような施設を検討してほしい。

(事務局)

・今年度から、公民館の短期講座として、スマートフォン講座なども開設している。  
また一部の公民館では公民館長の方が大変パソコンに詳しい方で、パソコン教室なども実施しているところもあるので、今後もそういったご意見を踏まえながら、いろいろ学習の機会を増やしていきたいと考えている。

(委員)

・P52 の「郷土愛を育む教育の推進」について、会長がおっしゃるように地域と文化のつながりは大事であると考えており、徳島県には本当にたくさんの文化があると思っている。

子供たちには多くのことを経験してほしいと思っているが、残念なことに、コロナも関係していると思うが、この時期に太鼓、地域の祭りの音、毎週のように聞こえていたものが、10年ぐらい前からは年々減少してきている。HPで確認すると鳴門市には獅子舞は11個ぐらいが地域で助成を受けたりするなど現存している。この現状には少し危機感を感じている。

私自身の住んでいる地区も、太鼓、獅子舞などは集会所や神社に綺麗に置いているような感じであり、10年ぐらいは誰も扱っていないような状況であると聞いている。私たちが子供の時には、お祭りであれば太鼓とか獅子舞とか大人の人も、地域の人も参加し、お菓子をもらうのが楽しみであり、ぜひ自分の子供たちにもそのような経験をさせてやりたいと思う。県レベルの大事な文化もすごく多くあると思うが、身近な地区レベルの文化も大事にして欲しいと感じている。

(委員)

・P63「防災安全教育の推進」において、第一小学校のコミュニティスクールの会議に出席し、市内全校において避難時の経路を記入し、集合場所などを決めておくなど、雛形が提示されており、そのことについて検討した。

通学途中、学校にいるとき、家庭にいる時というような場面ごとには分かれているが、安全確認をどのように行うのかについて話合中で、学校から連絡をする場合と、学校へ連絡する場合とあるが、非常に難しい課題である。マチコミのようなコミュニティネットにおける一斉送信において連絡する場合もあるが、それだけでは、回線などが混線した場合には間に合わないかもしれない。

もう一つは、家庭の意識をどう高めるのが重要であるとの意見があった。近い将来、地震が起こる可能性があると言われ続けているが、中には危機感がない家庭があるなど、現実味を持った対応策が実施できていないのではないかと、家庭の意識を高めるのが先でない

かとかいう意見もいろいろある。いざというときの学校と家庭との安否確認の方法が問題になった。

(委員)

- ・生きる力、生き抜く力を養うことは非常に難しいと思われる。
- ・子どもの時から色々な幅広い知識を持ち、それを実践し、生活の中、この人生の中で役立つような知識を持った子供を育てていくことが大切と思う。体験などを通し、経験を養う子どもは、生き抜く力が身に付くのではないかと考える。

- ・図書館の寄贈について、図書館にも寄贈したいという電話があるが、先ほどの話でもあったように、一般の人が寄贈しやすくするために、わかりやすい表記の仕方、広報の仕方などを検討していく必要がある。

- ・学校図書館サポーターについて、県も力を入れ、研修なども実施している。鳴門市は県下でも率先して実施しており、小中学校の全校に配置している。今後も鳴門市において、図書館サポーターの人員の育成を推進していただきたい。また図書館サポーターの時給は安いいため、予算の範囲内で時給の増額を検討してほしい。

- ・「学校防災安全教育の推進」について、私も何度か学校防災会議に出席したが、災害に遭った場合にどうするのか、情報がまず入ってこないなどについて議論した。そこで私が提案したのは、「子ども 110 番」の活用についてである。学校外での災害時に、一番身近な方、「子ども 110 番」の家などに子どもが駆け込めるという施策をとる。「子ども 110 番」の家の人と学校が連携し、災害情報の集約場所に連絡し、情報共有するというものである。学校も子どもも、地区のどこが「子ども 110 番」の家であるのかについて知らないと思うので、事前に確認しておくことが必要である。また「子ども 110 番」の家の看板も汚く字が見えないので新しくする、常時人がいるのかどうかについての確認など、「子ども 110 番」の家の再考を検討してほしい。

(委員)

- ・委員さんが言われた「子ども 110 番」の件について、それぞれの地域に「安全を守る会」というものがあり、今も活動を続けており、地区によれば小学校と一緒にタイアップし、「子ども 110 番」の場所について教える活動を実施している。活動については、各地区の「安全を守る会」が中心となり実施しているので、その方たちとタイアップして活動すればいいと思う。

- ・P59「安心して学ぶことができる教育環境づくり」、ヤングケアラーの件について、テレビや新聞とかにおいても、ヤングケアラーの件が取り出されている中、「成果目標指標数値の

令和3年度実績」である、「教育委員会主催の研修会」が現状値としてゼロというのは如何なものか。ヤングケアラーの問題については、教員、学校などはその状態を身近に発見できるような環境にあるため、教育委員会からも学校や教員に対し積極的に研修を実施し、もっと勉強していただきたい。

(委員)

・P45「鳴門市楽しい生活を送るためのアンケート」において、「学校は楽しいですか」という質問に回答した児童生徒の割合が小学校 91.9% 中学校 90.8%ということである。

私もこの間、地域の女性学級で、人権ということに対して、校長先生に意見をお聞きし、私たちの学校生活と今とは全然違うと感じていたが、このアンケートの結果を拝見し、子どもたちが本当に楽しいと思い、学校に行っていることがわかり、先生方の努力の黙物であると感じ、とても嬉しく思う。

・P65、「SDGs教育」について、私もSDGsの 17 項目のこのバッチを作り、皆さんにいろいろとこれからも取り組んでいただきたいということで、啓発活動をしている。特に私たちは、17 項目あるうちの 12 の項目、「つくる責任つかう責任」ということに対して、日頃から気をつけていかなければいけないと考えており、このSDGs教育が浸透していく必要があると考えているので、計画として取り上げているのはいいと思う。

(委員)

・タブレットについて、子供たちが家に持ち帰っていると思うが、バッテリー充電器は子どもたち全員に配布しているのか。

(事務局)

・バッテリー充電器は小中学校の子どもすべてに配布し、運用している。